

令和6年度琉球大学法科大学院
B日程 未修者コース 入試問題

記述式試験

令和5年11月12日（日曜日）
10時00分～10時45分（45分）

注意事項

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

- 1 この試験では、問題冊子1部、解答用紙3枚、下書用紙3枚を配布します。
試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験開始後、問題の部分に印刷不鮮明、汚損等があれば直ちに申し出てください。
- 3 解答は、必ず解答用紙に記入して下さい。解答に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号を記入してください。
- 4 解答用紙が足りない場合は、適宜配布するので手をあげてください。
- 5 黒色または青色であれば筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
- 6 試験開始後は、途中退席できません。用便を希望する際は手をあげてください。
- 7 試験終了後、解答用紙を回収するので、指示があるまで席を立たないでください。
配布した解答用紙は、書き損じや未使用のものも含めて、すべて回収します。
問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。
- 8 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

2024(令和6)年度記述式試験問題[B日程]

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

(文章については、著作権の関係で公開いたしません。)

(坂井豊貴『多数決を疑う——社会的選択理論とは何か——』による。ただし、出題に際して原文の一部を改めた。)

(問1) 筆者のいう多数決による意思決定の方法の欠陥についてまとめなさい。

(問2) 問1を前提として、多数決による意思決定の方法について複数の改善策を述べなさい。

2024(令和6)年度記述式試験問題[B日程]

【出題趣旨】

本書は、「多数決ほど、その機能を疑われないまま社会で使われ、しかも結果が重大な影響を及ぼす仕組みは、他になかなかない」という問題意識から、多数決という意思決定方法とそれに代わるルールについて考察したものである。多数決という意思決定方法は、誰もがこれまでも（選挙を含めて）何度も経験しているものである。こうした状況下で、筆者の主張を正確に読み取ったうえで、至極当然のように考えてきたであろう多数決という意思決定方法について再考してもらうとともに、民主主義社会にとっての多数意見の決定方法という、法を学ぶうえでの原理的課題について考えてもらうことが、出題の狙いである。

【採点基準】（45点満点）

問1（20点）

1. 下記のポイントを押さえているか 15点
2. まとめ方（論理性・表現方法） 5点

（ポイント）

- ・多数決は多数派の意見を尊重しているように見えるが、多数派の意見が常に尊重されているかは疑問である。
- ・2位以下の加点ができるダウダールルールとは異なり、多数決では2位以下へ一切の加点ができないため、自分たちの意見を細かく表明し、あるいは適切に反映することができない。
- ・多数決は、人々の意思を適切に集約できず、また有権者の無力感を生むという欠陥がある。

問2（25点）

「問1を前提として」とあるように、筆者のいう欠陥を踏まえて論理的・説得的に、その欠陥に対する改善策を考え、かつ自分の言葉で表現することが求められる。筆者が文末で「集約ルールの変更により改善できる」とあるように、多数決の欠陥を補う、あるいはそれに代替する「集約ルール」を考えることが求められている。

1. 文中に出てくる「ダウダールルール」のようなスコアリングルールによるものを提示できているか 12点
スコアリングルールとは選択肢全体における位置（広く支持されていること）を重視するという方針に基づくものである。
2. 欠陥の指摘される多数決を補うものが提示できているか 8点
たとえば、多数決による「票の割れ」を起きにくいように、多数決に決選投票を付ける（決選投票付き多数決）というやり方がある。
3. 自らが示した改善策に十分な説明が付されているか 0～5点